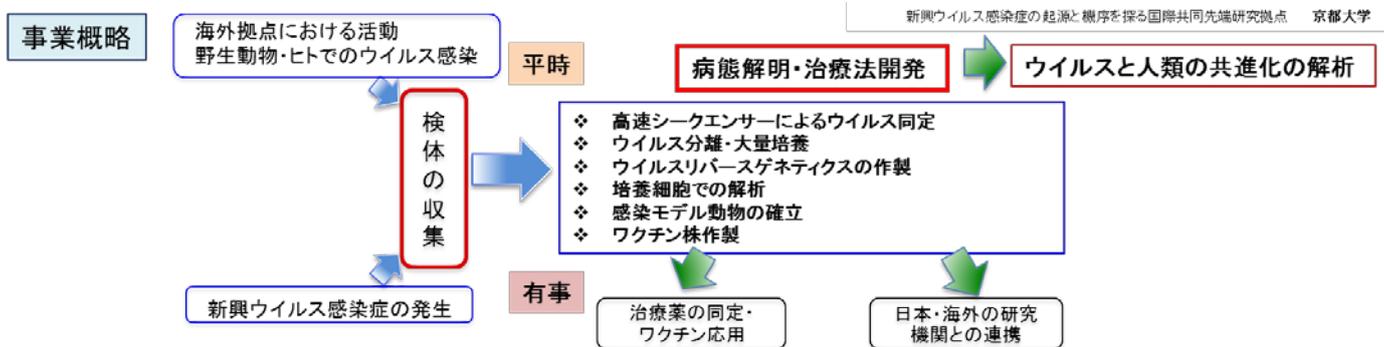


京都大学ウイルス研究所

「新興ウイルス感染症の起源と機序を探る国際共同先端研究拠点」

京都大学ウイルス研究所と京都大学霊長類研究所が「協働型ウイルス感染症ユニット」を設置し、新興ウイルス感染症研究、サルモデルの作出、さらに治療法の開発研究を行う。共進化してきたウイルスと宿主の相互依存機序の研究から「進化ウイルス学」という新たな学問領域を確立する。新興ウイルス感染症のアウトブレイクに対応できる国際研究ネットワークを構築する。



ウイルス研究所と霊長類研究所の協働型ウイルス感染症ユニットを起動する

フィールド研究チーム

- フィールドにおける動物ウイルスの調査 (平成25-29年)
- 霊長類ウイルス感染症の調査研究 (平成26-29年)



ウイルス探索・治療法開発チーム

- 新興ウイルスに対する治療法開発研究 (平成26-29年)
- 霊長類ウイルスと人類の共進化解析 (平成27-29年)
- 新興ウイルス有事に対応出来るネットワーク構築 (平成25年-29年)



サルモデル感染研究チーム

- 霊長類ウイルス(SRV4とSRV5)の基礎的研究 (平成25-27年)
- 新規ウイルス感染モデル動物の確立 (平成25-28年)



目的: 京都大学の特徴であるフィールド研究、霊長類研究、ウイルス研究の融合による**研究拠点としての機能強化**

効果

- 「進化ウイルス学」の創生
- 高等生物のライフイノベーションに必須の安全なサル類の確保による研究者コミュニティへの貢献
- 新たなウイルスの侵入に備え防御研究体制の構築